

令和4年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特6			学校名		県立水戸特別支援学校						校 長						宮山 敬子				
	副校長 吉田 信仁				教 頭 松浦 紀子						事務室長						炭田 幸宏					
教職員数	教諭	126	養護(助)教諭	2	栄養教諭	1	常勤講師	19	非常勤講師	5	実習助手等	2	寄宿舍指導員	14	事務職員	3	技術職員等	26	嘱託	3	計	205
幼児・児童・生徒数	部	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計		合計 クラス数						
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							
	小学部	4	7	7	7	4	7	7	6	12	2	4	6	38	35	29						
	中学部	14	10	7	10	15	8	6						36	28	22						
	高等部	10	6	9	7	7	6							26	19	16						

2 目指す学校像

行きたくなる学校を目指して
 テーマ:!! ?をたくさんみつけよう
 *たくさんの選択肢がある学校
 *安心して失敗ができる学校
 *地域みんなが応援してくれる学校

3 現状分析と課題(数量的な分析を含む)

項 目	現 状 分 析	課 題
教務部	○新学習指導要領と児童生徒の実態に基づく教育活動を実施している。 ○classroomやオンラインによる会議など、ICTを活用した連絡や運営などを行っている。 ○定時退勤日を週2日設け、計画的・効率的に業務を進めるように働きかけている。 ○定期的にコンプライアンス意識を高める研修を行っている。	・教育課程編制についての教員の参画意識を高め、指導内容の見直しによる教育課程の編成をする。 ・業務削減とワークライフバランスを意識した働き方 ・コンプライアンス意識の向上及び遵守
事務部	○計画的・効率的・有効的な予算の執行と事務事業の見直しを図る。 ○施設設備の適切な維持管理を通して、児童生徒の安全確保に努める。 ○働き方改革として、時間外勤務の縮減に努める。	・予算要求内容の早期把握と事務事業の精選。 ・防災安全指導と連携し、定期的な巡回による安全点検を実施し、危険箇所の早期発見と安全対策。 ・事務分担の見直し。
IICT推進部	○「働き方改革」を視野に入れ、ICTを活用することで書類仕事を整理することで校務の負担を軽減しつつ、その操作を行える教員を増やす。 ○情報モラルについての正しい知識を理解し、個人情報を取り扱い方を身につける。 ○児童生徒および教師それぞれに合ったタブレット端末の使用方法を模索し、自らから学ぶ力を育成する。	・教員全員にGoogleWorkspaceによるデータ共有の促進。 ・情報モラルに含まれるものを理解し、扱う力の育成。 ・全児童生徒の校内ネットワーク内やグーグル機能、ロイロノートなどの活用の支援。
支援部	○年2回学校見学会を実施し、関係機関への理解啓発を図っている。 ○通学区域のすべての幼児施設、学校等へ支援希望調査を実施することで肢体不自由のある児童生徒の在籍状況とニーズを把握し、巡回相談等の指導や支援へとつながっている。 ○学校見学や教育相談のほか、交流および共同学習の計画的な実施、児童生徒の教育活動の発表機会を設けることなどにより、本校の教育活動を知らせ、特別支援教育の理解推進を図っている。	・児童生徒の状況に応じた校内支援の充実と関係機関との連携 ・本校教育や特別支援教育の理解啓発のための在り方や方策の検討 ・コミュニティスクール導入に伴う地域交流の在り方の検討 ・「個別の教育支援計画」の活用促進と様式の検討
学習指導 改革推進部	○研究・研修チームと学習指導チームでの連携した学習指導の推進。 ○子どもたちの主体的な学びを意識した、教員主体の研修や学びの場の提供。 ○教職員同士による学習指導に関する情報共有や他の分掌部や学部との連携による研修会の開催。	・ICTを活用した教員主体の学びの場作り。 ・情報共有による指導方法の提供や研修会の実施。

自立活動部	○外部専門家(PT、OT、歯科衛生士、整形外科医)の相談機会を設定し、自立活動の指導力の向上を図る。 ○プロセスシートの作成を推進し、自立活動の指導の根拠を明確にする。	・相談を希望する教員の固定化。 ・職員間での助言内容の共有。 ・自立活動やプロセスシートの意義についての教員間及び保護者との共有。
生徒指導部	○児童生徒への学校生活アンケートをもとにした校内支援会議等の実施。人権啓発推進委員会での専門家からのアドバイスを頂いている。 ○不審者対応の避難訓練や定期的な構内巡視を行っている。 ○スクールバス運行時の災害時訓練・緊急時のマニュアル整備を整えている。 ○部活動では、将来の社会参加を目指し、高等部卒業後にに向けた活動の充実を図っている。	・児童生徒の悩みや課題についての教員間で共通理解が必要。 ・緊急メール等を活用した緊急時のスクールバスの訓練の実施。 ・部活動入部者以外の対外試合に参加するための練習時間と練習日程の確保。
保健安全部	○児童生徒が健康で安全な生活を送るため、健康管理や保健に関する研修会・緊急医療訓練(2回)の実施。 ○新型コロナウイルス感染症予防の徹底。 ○医療的ケア安全委員会、巡回指導医巡回指導の定期的実施。医療的ケアのマニュアル作成、ケース会の開催。 ○栄養と健康に関する指導の実施、安全に給食を食べられるよう支援。 ○火災や地震、原子力災害等を想定した避難訓練、引き渡し訓練の実施、学校防災連絡会議の開催と校舎内外の美化。	・緊急時における教職員の適切な支援体制の構築 ・新型コロナウイルス感染症予防方法の改善と実施 ・教員と看護職員、医師の連携、保護者負担の軽減を踏まえた安全な医療的ケアの実施 ・食に関する実態表の活用、研修会の開催、安心・安全な給食提供 ・避難訓練を実施による対応力の向上と地域との連携体制の構築
キャリア教育推進部	○小学部保護者の高等部授業見学会、小・中・高等部保護者の進路指導説明会を実施している。 ○「キャリア教育通信Step up」やブログ等で、本校のキャリア教育や進路指導について情報を発信している。 ○中学生生徒の職場・福祉施設体験実施に向けて関係機関との調整や活動内容の支援を行っている。 ○高等部の現場実習、企業・福祉施設見学や体験等を計画、実施している。 ○「いばらきキャリアパスポート」の活用をすすめている。 ○在学中から労働・福祉・支援機関と連携しての相談会を実施している。 ○卒業生の移行支援を年3回実施したり、同窓会役員会や会報の発行等、同窓会活動の充実への支援をしている。□	・保護者の進路指導に関する理解や意識の向上を図るための説明会や情報発信のより一層の充実。 ・職員の進路指導に関する知識の向上を図るための研修機会の充実。 ・個別の移行支援計画の改善と活用。
舎務部	○保護者・関係部署との連携を大切にし、中心的課題解決に向けた個別の生活支援を行っている。 ○災害時に備え、定期的な避難訓練(避難訓練3回・夜間想定避難訓練4回)と、シェイクアウト訓練を実施している。 ○寄宿舎の理解啓発のため、情報発信や体験入舎(親子体験入舎・教職員体験入舎)を行っている。 ○働き方改革に向けた、業務内容の見直しや検討。	・安心・安全な環境のもと、卒業後の自立を見据えた生活スキルアップのための支援。 ・災害時における職員・舎生の危機意識の向上と学校・地域との連携。 ・寄宿舎の理解と入舎希望者を増やす取り組み。 ・ワークライフバランスを意識した業務内容改善。
小学部	○児童一人一人のニーズを把握し、安全・安心して学習活動に取り組めるようにする。 ○ICTを活用し、児童一人一人の実態に合った学習活動を実施する。 ○保護者、関係機関との連携を大切にし、個別の教育支援計画を活用しながら、自立と社会参加を意識した支援をする。	・安全な環境の中で、安心して学校生活が送れるよう、一人一人の状況に応じたきめ細やかな支援が必要。 ・ICTを積極的に活用し多様な学びを実現するために指導の方法の工夫・改善を図る必要がある。 ・個別の教育支援計画の見直し検討をしながら、地域社会の人々との信頼関係、協力関係を築き、小学部からのキャリア教育の充実を図る必要がある。
中学部	○実態に応じた授業づくりや教材・教具、板書等の工夫をし、確かな学力の基盤を育成する。 ○将来に向けて自立と社会参加を目指し、具体的な体験をととして自己や他者の理解を深めながらやり取りする。 ○保護者、関係機関との連携を密にし、個別の教育支援計画等の策定をしたり、適切に活用したりする。 ○多様なニーズに応じた訪問教育の実践。	・授業づくりや教材・教具、板書構成等については、必要に応じてICT機器を活用するなど工夫することが必要。 ・地域社会の中で具体的な体験をしたり、他者とのやり取りをしたりすることが必要。 ・個別の指導計画の定期的な見直しをし、指導に生かす。 ・訪問生の増加により訪問教育担当職員の移動時間等を含めた時間調整の配慮が必要。
高等部	○将来の自立と社会参加を目指し、高等部卒業後にに向けた進路学習の充実を図っている。昨年度より進路についての学習の内容を整理し、どの授業でどのような内容で行っていくのかを検討しながら進めている。 ○生徒が主体的・意欲的に取り組んだり、体験したりする学習を充実させるための授業内容や支援の方法を工夫している。 ○個別の教育支援計画や指導計画、移行支援計画などを作成し、在学中の支援や保護者、関係機関との連携を図るために活用している。	・引き続き、進路学習についての学習内容の検討や整理をしていく。また、生徒だけでなく、保護者へも進路についての具体的に進め方や進路選択の方法などを支援していく必要がある。 ・主体的・意欲的に学習に取り組むための、授業の工夫とICT活用の方法を検討していく。 ・個別の教育支援計画や移行支援計画の内容を本人や保護者と共通理解した上で、進路先への情報提供や情報の共有を行い連携を図ることが必要。

4 中期的目標

SDGsを意識して以下のことに取り組む

- ① 学校の在り方(コミュニティ・スクールとして)
 - 教師自らが社会とつながり課題を発見し熟議を重ねる。
 - キャリア教育を推進する(労働、医療、教育、行政、福祉等の関係機関との連携強化)
 - 特別支援教育の理解啓発のための積極的な情報発信と交流及び共同学習を推進する。
- ② 学び方改革
 - ICTを積極的に活用する。
 - 社会とつながる教育を推進する。
 - 問いから始まる、個別最適な学び方を推進する。
- ③ 教師の在り方
 - 専門性を高め(特に自立活動)指導力の向上を図る。
 - 子供を主語にし、自らは伴走者となる教育を推進する。
 - 自らの社会的経験の幅を広げ、学び続ける。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
1 学校の在り方をアップデートする	① たくさんの選択肢を用意する ・ICTの活用による多様な学び方の推進 ・教師自ら「！？」を見つけともに解決しようとする取組 ② 安心して失敗できる環境作り ・一人一人の状況に応じたきめ細やかな支援 ・主体的な行動を促し認める支援 ・挑戦する人を応援する支援 ③ 地域とともにある学校 ・コミュニティ・スクールの取組 ・学校の外に出て「！？」を見つける取組 ・関係機関と積極的に情報を共有する取組 ・地域の人々と共に学ぶ取組(交流等)
2 学び方改革を推進する	④ 積極的な情報発信 ・OUTPUTを積極的に取り入れる ⑤ 社会とつながりながら体験を中心とした活動の充実 ・小学部からのキャリア教育の充実 ⑥ 「！？」から始まる学習スタイルへ ・自ら課題を発見し、解決に向けて学ぶスタイルを推進する
3 教師の在り方をアップデートする	⑦ 子供の心に火を付ける取組 ・子供の「！？」を大切に取る取組 ⑧ 学び続ける教師 ・自己研鑽の時間の確保(自主的勉強会の推進)
4 働き方改革を推進する	⑨ プロジェクトチームによる実践 ・安心して働ける環境作り ⑩ コンプライアンスの遵守 ・ワーキンググループによるボトムアップ研修 ・業務の抜本的な見直し 等